

事例3

< 事例概要 >

- ① 10 歳代、多発奇形で定期外来受診時に嘔吐、微熱の症状があった外来患者。
- ② 原因検索目的の検査。
- ③ 医師は診察時に再診を1 か月後に予約し、患者は血液検査後に帰宅した。臨床検査技師はCRP50 mg/dL のため再検査を実施した。検査値確定後にオーダーした医師と該当外来へ連絡したが、外来終了後で報告ができず、電子カルテへ検査結果を送信した。オーダーした医師が不在時の報告ルールはなく、それ以降の連絡はしなかった。患者は、症状が続いたため3 日後に受診した。医師はその時に、前回の検査結果を確認、髄膜炎および敗血症性ショックと判断し、患者は緊急入院した。
- ④ 入院翌日（パニック値検出より4 日後）に死亡。
- ⑤ 死因は、髄膜炎による敗血症性ショック。死亡時画像診断（Ai）無、解剖無。